

校長ニューズレター(第号・1月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



学芸会から学習発表会へ(連載4)

連載のさいごに、以前にも紹介しましたが学芸会を学習発表会へ変更したことの説明をしましょう。

(1) 一年間の学習を発表する

学校で子どもたちが一年間学んだことを、保護者の皆さんや地域の方々、お世話になったの方々などに発表することは、本校の学校づくりの成果を公開するという大きな意味があります。公開するには、公開する内容が必要です。その内容は、すべての子どもがこのように成長しましたということをお見せできるかどうか、そこが一番大事な点になると思います。子どもの成長を第一目的にしていくということは、にわか仕立てではできません。一年間じっくり取り組んできたことを公開してこそ意味があるのです。

公開する総合表現は、一年間かけて取り組んできました。公開授業は、一年間かけて授業研究に努力してきた先生たちの授業を公開します。授業のなかで子どもたちはどのように学んでいるのか、集中しているのか、しっかり考えているかなどが見所になります。

(2) 授業と行事の直結

子どもたちの成長を願って学校は教育をしています。学校教育は、授業と行事が織りなす形で営まれています。したがって、もっとも必要なことは授業と行事のむすびつきを強固にすることです。授業と行事がなんの関連もなく、バラバラではいけません。授業と行事を直結させる、すなわち授業で学んできたことを、行事で発表するということが一番いい方法と考えています。そのことによって、子どもが育つと考えています。

授業と行事をバラバラにやっていると、子どもた

ちも先生たちも、常時、行事に追われていくこととなります。まかり間違えば、行事のために授業を犠牲にしてしまうかも知れません。これではいけません。

また、宜野湾市教育委員会は、校長研修会で行事の精選をしていくことを促しています。理由は、いくつかありますが、もっとも大事なことは子どもの成長を考えているからです。

(3) あれもこれもでは子どもは育たない

学習発表会と学芸会の二つを実施するのは不可能です。この場合、学芸会の内容と学習発表会の内容は違うものです。

こういった内容の違う二つの行事(学芸会と学習発表会)を学校で取り組むことは困難です。あぶらち取らずになってしまいます。

(4) 行事の目的

行事は、こどもの可能性を開いていくことが一番の目的です。こどもの可能性を開きのばしていくこと、それが学校の最優先事項です。

子どもを育てること、「生きる力」や「確かな学力」を育てていくことには、時間がかかります。「教育は百年の計」といわれており、こどもの成長には長い時間が必要です。

総合表現で子どもたちの自信や集中力を育てたり、自分の頭で考え行動できる子ども育てようとしています。時間がかかります。二年・五年・六年が二年目、その他の学年が今年初めてこの表現に取り組んでいます。総合表現の取り組みについて、違和感をもたれる方もいらっしゃるかも知れません。

保護者におかれては、じっくりと見まもっていただきたいと存じます。